

学校教育目標	「Shine かがやこう! Rainbow にじいろのえがお Nexus つながる白根」 ○自ら学び、様々な表現活動を通して考えを深めようとする力を育てます。(知) ○自分のよさを発揮し、他の違いを認め合いながらともに活動できる心を育てます。(徳) ○自分や他の生命と体を大切にし、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○自分を見つめ、仲間や地域社会とのつながりを大切にしながら、ともに生きようとする心を育てます。(公・開)					
	学校概要	創立 144 周年	学校長 海老澤孝代	副校長 坂井 敦	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 5
	児童生徒数:	575 人	主な関係校: 上白根北中学校、今宿中学校、鶴ヶ峯中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上白根北中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <言語能力>	上白根北中学校 上白根小学校 白根小学校 四季の森小学校	自分の思いや考えを表現する子ども 互いを認めあえる子ども 課題解決や目標実現のために粘り強く努力する子ども ・特別支援教育の視点を大切にした学習指導及び児童・生徒指導の推進 ・人権感覚をはぐくみ、児童・生徒一人ひとりの活躍の場、役割を大切にしたい安心 できる居場所づくりの推進 ・児童生徒が表現する場や機会を保障し、その経験を重ねていく取組の推進

中期取組目標	○教職員、保護者、地域が三位一体となり、子ども一人ひとりが自分のよさを発揮し、互いに認め合える学校を目指します。 ・1年目は、一人一人の子どもが自分自身を見つめ、自分のよさを安心して出せる場づくりに努めます。 ・2年目は、お互いが一人一人のよさを認め合い、自分の考えを伝え合える力を育てます。 ・3年目は、伝え合うことで自分の考えを深め、何事にも自分から積極的に関わろうとしていく子の育成に努めます。 ・3年間を通して、教職員、保護者、地域が協力し、子ども一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活を送れるようにします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①重点研として国語科を中心として授業づくりに取り組む。相手意識、目的意識をもって主体的に取り組めるような言語活動を設定する。②自分の考えをもち、伝えることで互いの考えを共有したり比べたり広げたりすることができるような学習活動を設定し、互いに学び合うことができるようにする。
担当 研究部	
徳 豊かな心	①たてわり活動、ペア学年での活動など異学年交流を充実させ、社会性や協調性を育てる。それぞれの学年に応じたねらいを明確にして活動をすすめていく。②多様な考えを寛容に受け止める雰囲気を作り、互いに認め合えるようにする。話の聞き方や自分の思いの伝え方を継続的に指導していく。
担当 研究部	
体 健やかな体	①運動委員会の活動を充実させ、年間を通して様々な運動に親しめるようにする。長縄集会を前期・後期でそれぞれ1回ずつ実施し、年間を通してめあてをもち、取り組めるようにする。②食育と教科を関連させて栄養について理解を深め、バランスのよい食事を意識できるようにする。
担当 研究部	
公 開 自分づくり教育	①各教科や特別活動、学校行事等のふり返りを適切に評価し、価値づけることで自己有用感を高める。②地域コーディネーターと連携し、地域に関わる活動を深めることで地域の一員としての自覚がもてるようにする。③様々な場面を通して自分の言葉で思いや考えを伝えることができるようにする。
担当 総務部	
いじめへの対応	①いじめの未然防止に向け、教科担任制や交換授業を導入し、担任だけでなく複数の職員が目で見守り・支援に当たる。②児童支援専任・指導部を中心に定期的にいじめ防止対策委員会等を開き、未然防止・早期発見・早期対応に努める。③対応の改善に向けて、職員会議等での児童の情報交換を行う。
担当 指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①引き続きメンター研の内容を共有し、全職員で人材育成の意識を持ち、経験の浅い職員の困り感に寄り添えるようにする。②前年度の校務分掌や各行事の係分担をふまえ、各職員の経験を生かした学校運営をする。③年間授業時数を見直し、ゆとりをもった教材研究や評価処理ができるようにする。
担当 教務部	
地域学校協働活動	①学校だよりやHPさらに動画配信を活用し、情報教育に努める。また「すぐる」内に地域チャンネルを設定し、情報共有ができるようにする。②保護者ボランティアと児童との関わりを深められるような活動を継続する。③学校運営協議会やゆりのき会との連携を深め、様々な課題を職員と共有できるようにする。
担当 教務部・総務部	
児童理解	①児童一人一人が自分のよさを発揮したり、互いのよさを認め合える関係づくりを図ったりする機会を増やす。②横浜プログラムを効果的に活用できるよう支援検討会を実施し、特別支援の視点で児童支援・学級経営に努める。③SCやSSWとの情報共有や特別支援研修等、他機関との連携を図る。
担当 指導部	
	c9
担当	
	c10
担当	